第９章ポストコロニアル時代のグローバルな役割とグローバル化

ヨーロッパのグローバルな諸特殊性と諸結合

繁栄の時代⇔第一次オイルショックからベルリンの崩壊までの間異なる様相

1.　ヨーロッパの新しい特殊性、古くからの特殊性の変化

2.　脱植民地化→アフリカ・アジアとの経済的・文化的結合の変化

3.世界経済と世界的情報伝達における新たなグローバル化の時代
→ヨーロッパの新たな地位

4.グローバル化と密接に関連
→移民送出大陸としての役割

重要なグローバルな移住受け入れの極に

5.世界の公衆・国際機関のなかでヨーロッパの重要性が変化
《ヨーロッパの諸特殊性》
1979 年代、1980 年代のヨーロッパ＝ダイナミックな成長地域ではなくなる

→短期間の間に最も強力な地域から最も成長の弱い地域へ
工業部門の優位…比重の後退⇔だが、工業社会という特徴
ヨーロッパにおける工業部門の就業の重要性
ヨーロッパの政治家・専門家＝経済成長政策＝工業誘致

→かつての地歩を失ったが、経済モデルとして優勢
人工の増加率＝低迷
経済や社会への積極的な国家介入も変化
⇒新しい特殊なヨーロッパ的な矛盾へ

国家加入に対する公的な批判が世界で増加⇒国家＝進歩と近代性×
新しい社会運動からの批判
＝積極的な干渉を行う介入国家のヨーロッパ的特殊性、後退

⇔国家介入が拡大支出は抑制されても一時的なもの

欧州共同体＝域内の通貨関係＝規制路線
ブレトンウッズの国際的通貨システム→独自の地域システムに置き換え
欧州共通通貨のための計画＝国家介入の批判と民営化の時代
　＝規制緩和に反対する抵抗、新たな規制

　⇒介入国家の大幅な受容もみられる矛盾
　＝ヨーロッパの特殊性としての顕著な国家活動変化
グローバルな影響力は失うが消え去ることはない

価値観念の発展＝「個性化」
関連して→《ヨーロッパの特殊な展開》世俗化
私的・公的なケヴァルトの後退

　→人権と暴力の制限＝外交政策の根本原則
　　暴力の追放

　政治的特殊性が目立つように＝欧州共同体における各国の政府間の密接な協力と結合

・徹底・・・ヨーロッパ外の地域とは異なっている
独自の権限を有し、各国の政府から独立して活動できる超国家的機関の存在

・政府首脳の頻繁な会合
⇒エリートのネットワーク：西ヨーロッパにおいて緊密
諸国家間の行政機関の絶え間ない交流
・議会制度による地域機構のコントロール
・加盟の条件としての「安定した民主主義」＝独自の要求
・国際的な人権裁判所の設立：ヨーロッパ地域機構の重要性、外からも増大

《欧州共同体》の特別：東ヨーロッパのコメコンに対する熾烈な競争のなか
コメコン＝ソ連支配の帝国的道具

⇔アメリカは欧州共同体の外
⇒各国政府の経済協力や地域提携の政策モデル：グローバルな公衆の中で議論
《ポストコロニアリズム》＝ヨーロッパの世界的な結合に決定的

→脱植民地下の断絶の深度
＝旧植民地の強度の経済的従属は存在
対外貿易、外国投資、貸付金→国際的企業の重要性→政府の経済的な重要性の低下

⇔旧宗主国の政治的影響力の消滅・・・たたし強い影響力＝植民地時代からその国を知っている
国内紛争に対するヨーロッパの軍の要請
欧州共同体：学識・専門家に依拠した開発政策
かつての植民地帝国＝政治的影響力の保持につとめる
文化領域：従属の固定化：言語、ライフスタイルなど

⇔非植民地化＝断絶でもある
アメリカとソ連がヨーロッパのかつての植民地に影響力

＊公式の植民地支配のなくなる・・・だが、非公式の覇権
ヨーロッパの国際的企業の諸政府に対する影響力を増大＝独自のアクターに

※ヨーロッパ個々の政府→国際企業への影響力は弱い
※ヨーロッパのグローバルな権力喪失のもと、二つの超大国＋国際的企業
⇒加えて欧州共同体：独自の開発政策
⇔旧植民地のヨーロッパにとっての経済的な重要性、低下
　　＝他の工業諸国が重要、投資先に

→第三世界全体＝ポストコロニアルな従属・・・経済的な従属からの解放
→独自の工業製品の輸出、石油の埋蔵量
⇒一方的な植民地的な従属搾取から相互依存関係に

支配形態としての植民地がほとんど消滅
→わずかに残っていた植民地＝かつてのヨーロッパ諸帝国の断片
⇒従属＝植民地支配のもとで存続したのか、ヨーロッパの影響力の行使に基づいていたの

かで違い

《グローバル化》＝1980 年代の間にキー概念に
＝最も狭い意味《国際貿易、投資、企業活動を通じた経済の国際的な結合の強まり》
最も広い意味《中心的な経済的結合＋コミュニケーション、移動の増加、組織、ネットワークの拡大
ライフ、消費スタイルの形成←それらに対する抵抗、他の地域での公的な認知》

＝時期区分、近代初期／19 世紀初頭 or1870 年代／WWⅡの後など区分は異なる
アメリカアメリカ＋アジア←ヨーロッパは副次的

→1950 年代から 1970 年代：ヨーロッパのグローバルな結合にとってアンビバレント
＝世界市場からの切り離し
貿易や資本のグローバル的結合＝遅れ
ヨーロッパがグローバルな諸機関での重要性を失う
脱植民地化によって政治的結合が減少
冷戦＝グローバルな衝突ヨーロッパにとっては地域衝突

→1970 年代から 80 年代に変化：グローバル化を促進
輸出量の増大
＝世界経済にとってのヨーロッパの重要性の増大
＝ヨーロッパ工業のグローバルな優位
WWⅡ以後輸出志向により経済的回復のプロセス始動

2

国際的なコミュニケーション、輸送費用の容易化
＋対外投資の増加によってもグローバル化は強まる

→対外投資の対象地域はアメリカ、西ヨーロッパ、日本に限定
決定的要因：国際的な資本移動に対する国家的コントロールの自由化
国際的なヨーロッパ企業の役割
1970 年代、80 年代に諸企業の重みが増加→強く世界経済の中へ
＋情報伝達技術、輸送技術の上昇、効率化により強化←政府によるコントロール＝難しくなる

移住によるグローバル化
非ヨーロッパ人が 1960 年代以降移住を始める、市民権＝世界の移住地域の一つに

←グローバルな遠方地域からの移住者っではなく、隣接する世界地域からの移住；古典的労働移民
＋新たな刺激
1980 年代の庇護を求める人々の急増、非合法な移住、高度な能力を持った人々のグローバルな移住
ヨーロッパ文化が現地でグローバル化

消費の国際化
1950 年代、60 年代、部分的はヨーロッパ化であり、アメリカ化である

＝アメリカの消費のヨーロッパ化でもある
1970 年代、80 年代ヨーロッパの消費のアメリカ化←さまざまな地域の消費スタイルの受容により補完
＝消費はグローバル化

⇒アメリカ化とは異なった様相＝アメリカ化ほど広範囲にわたってはヨーロッパ社会を変化させず
＝消費の根本の変化
⇔アジアからの消費財＝世代対立のシンボルにならなかった

＝消費のグローバル化の議論も同様
アメリカ化を補完
グローバルな移動のほかの次元：国際的な観光・ビジネス旅行：従来の発展が継続
外国人学生を世界の諸地域から集める（アメリカの次）
書籍・新聞の輸出地域：多くの書籍が多くの他言語に翻訳→ヨーロッパの多言語性
グローバル化：国際的な市民社会の活性化

国際的な非政府組織の数の増加
影響力のある国際的 NGO はヨーロッパに基盤
運動のグローバル化、グローバルなネットワークで結ばれた数多くの社会運動

⇔グローバル化の暗い側面も強まる
麻薬取引、非合法は移住
グローバルな危機の共通の経験を通じて、ヨーロッパと他の世界地域は結びついたか？
個々の地域に限定されたものではないか

⇒1970 年代、80 年代、ヨーロッパの世界的結合＝非常に濃密
→ヨーロッパのアクターたちは自分たちの大陸のグローバル化を自ら積極的に促進
諸結合をもたらる
⇒ヨーロッパ＝矛盾を含んだ二重の役割
グローバル化における自称犠牲者の役割⇔積極的に推進し、利益を引き出す
《世界の公衆の中のヨーロッパ》

ポストコロニアリズム・グローバル化→グローバルな結合について、それ以外の示唆のテーマを周辺に
＝世界の公衆のなかのヨーロッパの役割

ヨーロッパ WW Ⅰ以降：指導的・積極的なグローバルなモデルとしての役割失う

←２つの世界大戦の残虐行為、植民地戦争により魅力×WWⅡ以降：ヨーロッパモデル←冷戦のなかでアメリカ・ソ連モデルにより広範囲に押しやられる
例外：ハイカルチャーと福祉国家
→1970 年代から 80 年代にかけて勢いを失う市場に有利で国家に不利な傾向
⇒ヨーロッパ＝平和的で非軍事的な、和解志向の国際関係のモデルの役割まだ×

＝経済・観光旅行・情報伝達技術で他の地域と結びつき
≠他の地域に対する自身の公的な関心×

※旧宗主国の関心はヨーロッパにメディア：他の地域の報道強化×
→他地域に関するヨーロッパ人の学問的関心は低いまま
⇒環境・気象保護、エネルギー供給、軍縮、人権徹底的グローバルな考察×
1970 年代、80 年代＝今日的なヨーロッパ近代の始まり＝ヨーロッパの特殊性変化

⇒最も高い地域から最も低い地域への転落、工業部門の強大さは薄れる→工業志向の後退
規制緩和へ
ヨーロッパの特徴《異常にゆっっくりとした人工・都市の成長、個別化・世俗化》
貿易の増加、ヨーロッパのコンツェルンの台頭、情報伝達技術・輸送技術による他の地域との結びつき
グローバルな市民社会、消費の生成に対して：積極的な役割移住の増加

⇔暗い側面
⇒新しい諸結合＝かつての権力的地位への復帰×
「脱植民地化」不平等な経済関係：残ったまま、文化的優位の保持
←「世界政策」アメリカとソ連によって押しのけられる
⇒近代的な工業諸国との経済関係の重要性の増加
ヨーロッパのグローバルな影響力＝根本的なアンビバレンス

⇒重要性は国際機関・世界の公衆のなかで減少
アメリカ・ソ連の勢力圏に
※ソ連＝中央集権的、アメリカ＝非中央集権的に
＝ヨーロッパ＝経済的・文化的に新種で重要なアクターに
※他の世界地域との結合を精神的にはほとんど認めず